あ と が き

第10号刊行以来，４年の月日が流れ，ここに第11号を刊行する運びとなり，新たに永田淳嗣，小林正夫の両助手を執筆者に迎えた。その間，平成２年４月には，本学部の新装なった12・13号館を使用して，26年ぶりに日本地理学会春季学術大会が開かれ，724 名の参加者を迎えて盛会であった。また，平成３年６月には，本学部が推薦機関となり，国際交流基金の御協力を得て，当時のアメリカ地理学会会長スーザン・ハンソン教授を日本に招待した。10日間という短かい滞在にもかかわらず精力的に行動され，100名を超える日本の地理学研究者との交流を深められ，日米両国間の地理学に関する学会レベルの情報の交換が始められた。

さて，平成２年10月に，教室主任であった山口岳志教授が本学部の教官組織である人文科学科の科長に推挙されたため，教室主任は教養学科第一委員長を３年にわたり勤め上げた田辺裕教授に引き継がれたが，平成３年７月より田辺教授がパリ大学都市日本館館長に２年間派遣されることになったため，平成３年４月より急きょ谷内が教室主任を引き継ぐことになった。ところが，その半年後に本学部の激職の１つである第六委員会（学生）に召集され，本年４月から９月まで委員長を仰せつかってしまった。

したがって，この４年間は人事異動を含む変化の激しい時期でもあった。

まず，平成元年４月１日付で佐藤哲夫助手（教育学教室・人文地理学分科担当）が三重大学人文学部専任講師に昇任し，その後任に永田淳嗣助手（教育学教室，平成３年４月から人文地理学教室）が採用された。さらに，平成２年４月１日付で杉谷隆助手がお茶の水女子大学文教育学部専任講師に昇任し，その後任として小林正夫助手が採用された。平成３年４月には，谷内が教授に昇任し，人文地理学教室は３教授の時代に入った。

田辺教授の渡仏後，その代替処置として信州大学経済学部の荒井良雄助教授の配置換えが承認され，本年４月１日付で着任の予定で，２年後に停年を迎える山口教授の後任人事が早めに行なわれたことになる。

最後になったが，平成２年４月から，５年間勤めて退職した鈴木和代さんの後を受けて，渋谷圭子さんが教室事務を担当している。

現在の本教室の職務分掌は，山口教授が理学系大学院地理学専攻主任，谷内が教養学科人文地理学分科主任ならびに人文科学科人文地理学教室主任となっている。

本紀要の刊行にあたり，多大の御支援をいただいた第三委員会，人文科学科，事務部に心より御礼申し上げる。

梅香る駒場キャンパスの研究室にて

平成４年２月

谷　内　　達